

公明市議 要望活動を橋渡し

街路灯の維持管理費 4月分から住民負担ゼロ



沿道住民（左側3人）と喜び合う中川市議

▼山梨・笛吹市

山梨県笛吹市は、石和町市部を通る国道411号沿いに設置された街路灯87基の電気料金や保守点検にかかる維持管理費を負担し、4月分からの住民負担をゼロ

口にしている。街路灯は、西町交差点から八田交差点までの延長950㍍に立ち並ぶ。設置当初の2004年3月、沿道住民らで構成する市民団体と山梨県との話し合いで、市民団体が街路灯の維持管

理費を支払うことになった。一方、近年は住民や商店の数が減少。1人当たりの支払い負担軽減に向けて街路灯のLED化が進められたものの、物価高騰に伴う電気料金の値上がりで一部の街路灯は点灯を継続するのが困難になった。

「このままでは市部通りの明かりが消えてしまう」。住民の切実な声を聴いた公明党の中川秀哉市議は昨年6月、地元区長らが山下政樹市長宛てに維持管理費を自治体負担へ移行するよう求める要望書を提出する橋渡し役を担った。

その後も市部通りを利用する歩行者や車両の安全確保、景観維持の観点から協議を重ねた結果、市は同12月に県と新たな協定を結び、今年4月分からの維持管理費を負担することになった。

中川市議は先ごろ、これまで地区の会計を務めた沿道住民に経過を報告。「集金や支払いの周知徹底の苦労がなくなり一安心」と喜びの声が寄せられていた。